



永原小学校からの報告

活動団体名： 永原小学校 4年生

活動人数： 12人（教員1名）

取組時間： 総合的な活動の時間

調査内容 1回目：5月22日（月） 山門公民館前  2回目：6月8日（木） 永原駅前 

【第1回水生生物調査(大浦川上流)】

水生生物調査の事前学習を行ったり、1つ年上の5年生から昨年度の様子について聞いたりしていることもあってか、とてもわくわくした気持ちで調査に臨みました。指標生物が見つかる度に歓声が上がり、布施先生がバットを使って選び取ってくださった生き物を見て、特徴を事細かにメモしていました。子どもたちにとっては、カワヨシノボリを見つけられたことが嬉しかったようで、布施先生から「きれいな水にしか住めない生き物だよ」と聞くと喜んだ表情をしていました。採集の方法についても丁寧に教えていただきながら、ペアで協力して活動を行うことができました。

【第2回水生生物調査(大浦川下流)】

今回も布施先生に教えていただきながら、調査を進めました。大浦川上流のときと比べると生き物がたくさん見つかったものの、CODパックテストの数値を見て、上流の水質よりも汚れていることに気づきました。しかし、生き物にとっては、住みやすい環境であるからこそたくさん見つかったという事実を知り、大切な大浦川の水環境を守っていく必要性を実感していました。



調査員の感想

- ・大浦川の上流よりも下流の方が生き物がたくさん見つかってびっくりした。・指標生物によって、きれいな水、少しよごれた水、よごれた水、大変よごれた水に分けることができると知った。
- ・5年生になったら、大浦川の先にある琵琶湖について、詳しく調べてみたい。水質がきれいなのか気になる。
- ・大浦川は琵琶湖へと続く一つの川。ずっと生き物にとって住みやすい環境であってほしい。

捕まえた生き物たち

大浦川上流の山門地区では、サワガニ、ヨシノマダラカゲロウ、カワヨシノボリ、ヘビトンボ、ガガンボの幼虫、トビケラ、カワニナ、ナベタムシが見つかりました。

大浦川下流の駅前地区では、カゲロウの仲間やチリメンカワニナ、ミズムシ、タニシ、ドンコ、カジカ、ドジョウ、コオニヤンマの幼虫、イトトンボ、マツサカガイ、カワヨシノボリ、ナベタムシ、ウキゴリ、コシアマメンボ、ギンヤンマ、ピワヒガイ、ヌマエビ等が見つかりました。

調査のまとめ

本調査の結果から、大浦川の上流は「I きれい」、下流は「II 少しよごれている」の判定が出ました。子どもたちが興味をもっていた COD パックテストの結果は、上流が「2」、下流は「4」の判定結果でした。たしかに、大浦川の上流よりも下流の方が水質的には少しよごれていることは事実ではあるものの、生き物にとっては住みやすい環境であることを子どもたちは学ぶことができました。また、年に2回行っている山門水源の森での学習と関連させることで、山から川へと繋がっていることを実感していました。布施先生が仰っていた「水生生物調査の活動が始まったきっかけは、琵琶湖の水をきれいにしようという声から始まったんだよ。」という言葉が子どもたちにとって心に残ったようで、現在では大浦川の先にある琵琶湖についてすごく興味をもっています。本活動での学びを5年生での「うみのこ」の学習に活かすとともに、子どもたち自身が地元にある大浦川やその周りの自然を大切にしたいことを願っています。



活動の様子



【山門地区で水生生物調査の概要について聞いている様子】



【山門地区で採取した生き物を観察している様子】



【山門地区で採取した生き物について話を聞く様子】



【▼駅前地区周辺の植生について話を聞く様子】



【駅前地区でイワツバメについての話を聞く様子▲】

【駅前地区で生き物を採取する様子 1】



【駅前地区で生き物を採取する様子 2】

